

クラス番号	623	担当教員名	片岡 幸雄
テーマ	福祉・保健・医療の変化の中でMSWの役割と課題を考える		
著書・論文 研究課題等	「福祉・介護に求められる生活アセスメント」(共著) 中央法規 2007 年 「医療のなかでいかに社会福祉を実践するか～医療ソーシャルワーカーの揺らぎ～」『医療ソーシャルワーク』93 号 愛知県医療ソーシャルワーカー協会 2006 年 「日本医療社会事業協会の国家資格制度化運動をふりかえる」『医療ソーシャルワーカー新時代 地域医療と国家資格』(共著) 勁草書房 2005 年 研究課題 : 医療ソーシャルワーク MSW資格制度化問題(専門職, 専門性) 生活アセスメント		
ゼミナール概要			
キーワード: 医療ソーシャルワーク MSW業務指針 MSW資格制度化問題 生活アセスメント			
目的、内容、目標: 在宅療養, 在宅介護・看護の充実, 医療の質を重視した医療機関の機能分担と地域連携の促進(地域完結型医療)が進み, 最近では, 「地域」(互助・共助)を基礎にした「在宅」重視が鮮明になっています。これらを文字通り包括したものが, いま国が強力に進めている「地域包括ケア(システム)」と言えます。 こうした変化のなかで, 医療ソーシャルワーカー(以下, MSWという)の業務も多様化してきました。(高度)急性期病院、回復期リハビリ病棟、療養型病床、老人保健施設などにおけるMSWの「本来の役割」とともに, 「地域を基礎にした在宅での生活」を見据えたうえで, それぞれの機関・施設における「(個別の)役割」を担っていくことが求められています。 在院日数を短縮のための「効率」な退院・転院援助, 地域との連携を重視した在宅復帰援助といった取り組みに求められていることは, MSWがメディカル, コ・メディカルスタッフとお互い(福祉, 保健, 医療, 介護, 看護)の専門性が生かし, 尊重し合えるメンバーとしてリエゾン(連携)を進めシームレス(継目のない)な援助を展開すること。何よりも退院・退所後の患者・家族の「生活」を見据えた援助です。 1989 年(2002 年改定)に発表された「医療ソーシャルワーカー業務指針」にはMSWの業務内容と方法が示されています。その有用性からますますMSWの必要性が増大しています。患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」なかで, ニーズを発見し必要な援助をしていくことこそがMSWの役割であり, 医療ソーシャルワークの基本であると考えています。 MSWとして援助の軸をどこにおくのか, このことが非常に大きな意味をもっています。たんにサービスを当てはめる, 結びつけることはありません。一定の知識と経験があれば, どのようなサービスが必要かはすぐにわかることです。患者・家族に寄り添い, その人の「生活」を丸ごととらえ, そこから援助を展開することを重視する。MSWの果たすべき役割を考えていこう。 MSWになるための国家資格は, 今のところありません。では, 誰でもなれるものなのか? 社会福祉士でいいのか? MSWとして必要なものとは? そんなことも一緒に考えていきたい。 MSWの立場から, 医療福祉の実態と現場の状況を把握すること, そこで必要とされる医療ソーシャルワークの価値, 知識, 技術・方法を学び, MSWの役割と課題を一緒に学びながら考えていこう。 ゼミの進め方: 主体的に課題(問題)意識をもって出席し, 1回は発言するようにしよう。無断欠席・遅刻しない。 ① サブゼミ(グループ)ごとに, それぞれ取り組むテーマを決めレポート形式で発表します。 ② グループに分かれて病院見学を行います。できるだけ色々な機関・施設を選んで, 病院の機能分化の実態, そこでのMSWの役割を観てきます。 ③ MSW(主にゼミの先輩)をゲスト講師に招き現場の生の話を聞きます(3, 4年合同)。 ④ 患者と家族の生活全体を丸ごと「みる」ためのアセスメント「力」をつける学習をします。 ⑤ 3年の終わり頃から卒業論文の作成準備に取りかかります。社会福祉士国家試験対策等も行います。 ⑥ 3年の春休みには合宿を計画します。			
担当教員からのメッセージ			
MSWとしての 30 余年の現場での経験を生かし, MSWになりたいと思っている学生, MSWに関心・興味のある学生と一緒にMSWの役割と課題を学んでいきたいと思っています。そして、ゼミで学ぶことを通してMSWをめざしてもらいたい。ゼミ生の「 自己決定 」と「 主体性 」を尊重したゼミ運営をめざします。主役は「 あなた 」です。			